

## 令和6年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

### 県南会場

#### 科目 ⑬子どもの生活面における対応

- ◆ 児童にアトピーがある場合、何らかのアレルギーがあることを懸念すること、エピペンが20分しかもたないため、救急車の距離を考え、2本はあった方がよいことなどを知り、職員全体に周知し、気をつけていきたいと思いました。また、衛生管理の部分でも、食中毒の「つけない・増やさない・滅菌する」の三原則を徹底しながら、感染症も多くの人の出入りがある中、なかなか難しい部分もありますが、周囲の協力を得ながら、感染拡大防止に努めていきたいと思います。
- ◆ 業務継続計画（BCP）については昨年度見直した。食中毒や感染症については、子どもたちを守るためにはスタッフが感染源にならないこと、個々の健康管理の大切さを痛感した。様々な細菌がある中で、安全に安心して過ごせるように環境を整えることが大切だと感じた。おやつ環境を整えることはとても大事なことで、第4の食事として考慮し、楽しい雰囲気で作られるようにしていかななくてはと思った。子どもたちの健やかな成長の手助けをするためにも快適な環境で過ごせるような配慮をしていきたいと思う。
- ◆ 研修を受け、子どもが健康で安全に児童クラブで過ごすためには、様々な理解や知識が必要であると改めて実感した。エピペンの使用方法について正しく理解していない点があったり、昼食やおやつときの席の配慮や声かけひとつで、子どもたちの情緒の安定をもたらすことができると知り、心身共に安全・安心、かつ健康に子どもたちが過ごせるように努めたいと思いました。
- ◆ 日頃分かっていたつもりでしたが、食物アレルギー、食中毒、感染症の知識を再確認できました。アレルギー表示品目が変わったことも改めて知りました。日々のヒヤリハットや情報を職員間で共有し、子どもたちの健康を維持するために衛生管理に努め、おやつの選出、量や時間、賞味期限切れの防止など考慮していくことがとても大切だと思いました。
- ◆ 子どもの安心、安全を守るためには、衛生管理をしっかり行い、食中毒や感染症を防いでいく努力が必要だと学んだ。飲食を行う場として、職員が感染源にならないよう個々の健康管理や感染者の早期対応も必要だと理解することができた。また、アレルギー児への対応をしっかり行うことも大切だと理解することができた。保護者、職員間で情報共有し、誤飲を防止し、全体で健康な成長を支援していきたい。